



## キャリアコーディネーターを務めて

茨城県地域医療支援センター  
キャリアコーディネーター 荒井 康之

「困っている地域の力になりたい」「そのために、早く一人前になりたい」——これまでお会いしてきた若手医師や学生の言葉です。こうした言葉を聞くたびに、地域医療を支える仲間が増えることを頼もしく感じ、勇気づけられてきました。

医師一人ではできません。例えば、私だったら、地域の診療所でプライマリ・ケア医として仕事をしていますが、高度医療は地域の病院を

頼っています。代わりに、多科に渡る疾患群を総合的に診たり、在宅医療を提供したりなど、病院とは異なる役割を果たしているつもりです。医師一人ひとりが、それぞれの持ち場で力を発揮することによって、地域医療が成立するのだと思っています。そして、そういう地域の力の総合が「急患になっても、対応してくれる病院がある」「通院できなくなっても、往診してくれる診療所がある」と、すぐには医療を必要としない健康な人にとっても、「この地域なら安心して暮らせる」ということを保証するのでしょうか。

これまで、キャリアコーディネーターとして、たくさんの若手医師、学生にお会いしてきました。そして、それぞれの地域貢献したいという目標に向かって、着実にキャリア形成できるよう、微力ながらお手伝いさせていただいてきたつもりです。これからも、茨城県地域医療支援センター・キャリアコーディネーターがそういう役割を担っていきます。

みなさんと一緒に力を合わせて、より安心して暮らせる茨城にしていきたいです。みなさんに期待し、いつも応援しています。



### 地域医療支援センター

茨城県では、地域医療に従事する医師の生涯にわたるキャリア形成を支援するため、平成24年度に『茨城県地域医療支援センター』を設置しました。

センターでは、研修医の皆様が夢や希望を持って医療に従事できるような魅力あるキャリアパスや臨床研修病院との共同による充実した研修プログラムを用意するなど、医師の皆様に対するきめ細やかなサポートを行っています。

#### 主な取り組み

- 総合相談窓口の設置と情報発信  
県内医療事情の紹介や相談など総合相談窓口の設置
- 医学生・医師のキャリアアップ支援  
各種セミナー、研修会の開催
- 地域枠医師等のキャリア形成支援・派遣調整  
キャリアコーディネーターとの個別面談によるオーダーメイドのキャリアパス作成・提示、専門医・認定医の取得支援、医師不足地域の病院等への派遣調整・あっせん等
- 指導医の養成と研修体制の整備  
指導医の養成、地域医療に従事するために必要な技術取得のための研修会等

# 「精神障害者の問題を解決することで、地域の問題解決にもつながる仕組みづくりを展開」

県北地域の太子町で、先進的な精神科医療に取り組む袋田病院の院長であり精神科医の的場政樹先生にお話を伺いました。

## ●新しい時代の新しい精神科病院を目指す取り組み。

…袋田病院の特色を教えてください。

社会の端に病院をつくり、長い間隔離収容してきたというのが近代の精神科病院のあり方でした。この端っこの存在というのが、精神医療や精神障害者に対する偏見とか誤解にも繋がっていったのです。しかし現代では、働いている人たちのうつ病や、子どもたちの問題もあるし、お年寄りになると認知症の問題もあります。実は精神科医療というのは、特別な人たちだけが必要としているのではなく、全ての人に有用な医療であるはずなのです。端っこに追いやられたままでは、必要な人もなかなか病院に来られないし、当院は新しい時代の新しい精神科病院を目指し、アーユルヴェーダや漢方、新しい心理療法などを取り入れ、統合医療的なアプローチを試みつつあります。また建物も開放的で精神科病院らしくないものになっています。

さらに、この地域には、一人暮らしのお年寄りもたくさんいらっしゃるし、若い人は仕事がないため、人が減り耕作放棄地や空き家が増えるという過疎化、高齢化という地域全体の問題があります。そういったことと切り離して精神障害者の地域ケアシステムというものをつくっていくというのは、方向として無理が生じます。我々は、地域の問題と精神障害者の問題を同時に解決していく仕組みをずっと考えてきました。

その一つが「アミーゴ牧場」で、精神障害を持っている人が、常陸牛と認定されるぐらいの質の高い黒毛和牛を育成し、地域の地場産業を守るという形をつくっています。同時に、高齢化している農家さんに出向いて行ってお手伝いをするヘルパー事業を行っています。地域の問題と精神

医療法人直志会  
袋田病院  
院長・精神科医  
的場 政樹



「患者さんの作品」

障害者の問題を同時に解決していくという方向で、障害をもつ人の地域生活支援、社会参加をまちづくりに役立つ形で行っています。

さらに、平成13年からアートを病院の大きな柱としてきました。その活動を年1回「アートフェスタ」という形で外部に公開しています。アートは治療というより、患者さん自身の自己表現を促して、患者さんが自らを支え癒していく活動であり、同時に病院が地域に開かれていくためのツールと位置づけています。長年、都内の精神科病院で造形教室を主催されてきた造形作家の安彦講平さんに毎月1回指導していただきながら、この数年は非常勤で若手の現代芸術家も指導に来てくれています。立派な作品が出来上がり、ステンドグラスなどの作品はロビーに展示し、今後は販売も考えています。精神障害者が作品を作っているのではなく、障害をもった作家がいるという視点に段々と変わっていくことで、社会の中での障害のあり方や、他の人との関係性も変わってくるのではないかと期待しています。

…太子近辺の医療について感じることは？

医師不足は大変な問題です。これは私だけでなく、どの病院も苦勞されていると思います。茨城県は医師不足で



ワースト2ですよ、でもそれは南北合せて数字を出すとワースト2だけれど、もし南北で分けたら北はもっと深刻です。精神科だけでなく、とにかく県北の医療は大変です。太子の水郡医師会は、救急車の受入率がだいたい90%近くと高いのですが、これは交通の便からの地域特性と、小さな医師会であっても、一般診療科以外にも、産婦人科医院もあれば精神科病院もあって、一通り揃っている医師会だからです。しかし医師会員自体も高齢化が進みつつあり、あと5年経った時にどうなるかという、ドクターヘリはあっても、多分今のような状況では立ち行かなくなるといいます。住民がどんどん高齢化して、救急車の出動割合も高くなるのが予測されますので、今後、どうやって地域医療を守っていくのかというのは大きな問題です。

## ●病気を通して人生が変わっていくことに立ち会う仕事。

…先生の考える精神科医の仕事とは？

私は病気そのものを診ているというより、病気を通してその人の人生が変わっていくことに立ち会っているのです。虐待をずっとされてきた子が、例えば会社に入って上手く人間関係が結ばなくてうつになる。その人は会社でうまくいかないからうつになったと思っているのだけれど、話を聞いていくと傷ついた子ども時代というのが最初にあたりするわけです。子どもの頃からの虐待的生育環境から、自分で気づかないうちに人生に大きな影響が出ているので、それを見直していかなくてははいけない。自分なんか生まれなければ良かったとか、自分なんて価値がないとか、そういうふうになっている子が病気を境にして、自らの生い立ちを振り返り、傷を癒し新しい人生を生きていくようになるわけで、人生の物語が変わっていくのです。そこに立ち会えるというのは、精神科医の大事な仕事であり、醍醐味の一つだと思っています。病気や障害には全て意味があり、そのことによって人生の物語が良い方向に変わる契機となり得るのです。

…お仕事のやりがいや生きがいは？

私は、この地域での仕事を面白いと思っています。医療

スタッフの確保もいろいろと不利な条件の多い地域ですが、その不利な状況をどう利用して新しいものを創り出していくか、知恵と体力が要求されます。そういういろいろなものが要求されるところに自分が身を置くことは、一般的には厳しいことですよ。ですが、その中で自分の知恵なり努力なり体力を試されるのが、自分にとっては面白いと思っています。独自の取り組みにより、地域でハンディだと思われていることを逆に生かす仕組みができていくことは面白い仕事です。

昔から精神科病院というのは社会起業家としての側面というの、病院によって、あるいはリーダによってはあったと思います。精神科医療は病院の中だけでは完結しないのです。これだけ政治とか地域社会と関係している医療はないと思います。だから複雑で難しいのですが、いろんなことを表面的でなく考えさせる領域だからこそやりがいを感じます。

## ●困ったところに行き役立ちたい気持ちを忘れずに。

…若手医師、医学生に向けてメッセージをお願いします。

医師になる動機は人それぞれで、研究して沢山の人の役に立つような病気の仕組みを解明したい人とか、薬の開発に携わりたい人もいますが、困っている人たちを助けたいというのが基本的なモチベーションというか、医師を志した理由としてあるわけですよ。医師を必要としている地域や病院は沢山ありますが、そういう場所で働きかけはちょっとしたご縁です。私もご縁をいただいてこの病院に来ました。そしてそのご縁を感じながら、この場所で自分が自分らしい仕事を一生懸命にやっていたら、困っている人にとっても自分の医師人生にとっても良いことだと思えるようになりました。困っている度合いが強い場所を選ぶ人たちが、ある意味ではやりがいがあるはずで、それは医師を志す一つの原点のはずです。条件だけでなく、ご縁を大事にしながら、困っているところに行き役立ちたいという、素朴な気持ちを忘れないで欲しいと思います。

## 病院紹介 東京医科大学茨城医療センター コーナー

(茨城県稲敷郡阿見町中央3-20-1)

東京医科大学茨城医療センターは、学校法人東京医科大学付属の教育病院です。

当センターは昭和24年に茨城県稲敷郡阿見町に設立され、県南地域の地域医療、人材育成に貢献してきました。初期臨床研修プログラムは必修科目である内科・救急・地域医療と、選択必修科目である外科・麻酔科・小児科・産婦人科・精神科の診療を経験するスーパーローテーション方式です。地域医療研修では県内施設に加え、沖縄の臨床研修病院群プロジェクト群星沖縄の病院での研修も可能です。2年次選択期間は6ヶ月で、当センターと東京医科大学病院、東京医科大学八王子医療センター、筑波大学附属病院、筑波メディカルセンター病院、ひたちなか総合病院などと連携しており、キャ



リア形成に合わせた院外研修が可能です。院内研修中には総合救急センター当直を指導医と月4~5回行い、問診、バイタルサイン、身体診察、検査、アセスメント、入院適応判断、プレゼンテーション、入院治療を繰り返し訓練し経験を積んでいきます。どの診療科に進んでも、生涯忘れられない実践的臨床能力を修得できます。研修医は互いに協力しながら成長する住環境も敷地内に確保されています。文書で全てを書き尽くせませんので、是非一度見学にいらしてください。

(卒後臨床研修センター長 柳生久永)

## 研修医リレーエッセイ

株式会社日立製作所日立総合病院

初期臨床研修医 上田 志寿佳

長くも短くも感じる初期研修の2年間が終ろうとしています。私は徳島県出身で筑波大学を卒業しました。研修先である日立総合病院は筑波大学の関連病院の中で最北端に位置する基幹型病院です。私は、学生の地域実習を通して、医師の少ない県北地域で仕事をしたいと思い、当院で初期研修を行っています。

当院の魅力は、研修医と上級医の距離が近いことはもちろんですが、コメディカルスタッフがとても優秀な方が多く、日々チーム医療を実感できる職場であることです。

また、対象となる患者さんは、日立市の約20万人に加えて北は高萩、北茨城そして福島県、南はひたちなか市や水戸市からいらっやっています。

そのため、多くの症例を経験し、その中で様々なことを考え、勉強できます。

振り返ると、もっと早く検査してあげればよかった、あの治療を追加すべきであった、と後悔することが数え切れないほどあります。私はまだまだ未熟で、いわゆる患者さんにとって「いい先生」なんてものはまだまだ程遠い存在です。せめて少しでもそれに近づけるよう、残り少ない初期研修生活ですが、悔いのないよう精一杯精進したいと思います。



## ■県内臨床研修病院 病院見学対応状況

	医療機関名	見学時間	対象	宿泊	問い合わせ先
1	水戸赤十字病院	随時(平日)	5～6年生	近隣の宿泊施設を紹介	担当者：企画課 澤幡 T E L：029-221-5177(内線3155) E-mail：kikaku@mito.jrc.or.jp
2	水戸協同病院	随時(平日)	全学年	お問い合わせ下さい	担当者：庶務課 医局秘書 福家 T E L：029-231-2371 E-mail：residency@mitokyodo-hp.jp
3	水戸済生会総合病院	随時(平日)	全学年	院内施設に宿泊可能(無料)	担当者：総務課 山本 T E L：029-254-5151 E-mail：resident@mito-saisei.jp
4	水戸医療センター	随時(平日)	5～6年生	可能(無料) 院内の施設宿泊可能	担当者：教育研修部長 米野 琢哉 T E L：029-240-7711 E-mail：t.komeno.d@mn.hosp.go.jp
5	茨城県立中央病院	随時(平日)	全学年	院内宿泊施設利用可(応相談)	担当者：臨床研修センター 鶴井、田口 T E L：0296-77-1121(内線5777) E-mail：kenshu@chubyoin.pref.ibaraki.jp
6	株式会社日立製作所 日立総合病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者：総務グループ 石井 T E L：0294-23-1111(内線4234) E-mail：saiyou.nichibyoo.nx@hitachi.com
7	株式会社日立製作所 ひたちなか総合病院	随時(平日)	4～6年生	院内施設に宿泊可能 ※場合により近隣の宿泊施設を紹介	担当者：教育・研修センター 上村、渡辺、星野 T E L：029-354-6841 E-mail：saiyou.nakabyoo.op@hitachi.com
8	土浦協同病院	随時(平日)	全学年	可能(無料) 学生用宿舎に宿泊可能(要確認)	担当者：庶務課 湯原、大熊、中島 T E L：029-830-3711 E-mail：general@tkgh.jp
9	独立行政法人国立病院機構 霞ヶ浦医療センター	随時	全学年	可能(無料) 院内の施設宿泊可能	担当者：臨床研修担当 T E L：029-822-5050 E-mail：kasumisomyu@kasumi-hosp.jp
10	筑波記念病院	随時	全学年	可能(無料) 院内の施設宿泊可能	担当者：臨床研修担当 古矢、初澤 T E L：029-864-1212 E-mail：furyua@tukuba-kinen.or.jp
11	筑波大学附属病院	随時(平日)	全学年	可能 学内宿泊施設等 料金：2,500円～3,000円	担当者：病院総務部総務課(教育支援) T E L：029-853-3516、3523 E-mail：kensyu@un.tsukuba.ac.jp
12	筑波メディカルセンター病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者：総務課 谷田部 T E L：029-851-3511 E-mail：kensyu@tmch.or.jp
13	筑波学園病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者：人事部 笹島 T E L：029-836-1286(内線2341) E-mail：kei-kikaku@gakuen-hospital.or.jp
14	東京医科大学茨城医療センター	随時(平日)	全学年	研修医宿舎に宿泊可能 (無料・要確認)	担当者：卒後臨床研修センター 亀田、佐藤 T E L：029-877-1161(代表) E-mail：ksotsugo@tokyo-med.ac.jp
15	牛久愛和総合病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者：総務課 野中宏修 T E L：029-873-3111 F A X：029-874-1031 E-mail：nonaka@jojinkai.com
16	つくばセントラル病院	随時(平日・土)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者：経営企画課 久松辰男 T E L：029-872-1771 F A X：029-874-4763 E-mail：tatsuo.hisamatsu@central.or.jp
17	JAとりで総合医療センター	随時(平日)	5～6年生	近隣の宿泊施設を紹介	担当者：庶務課 藤倉、佐藤 T E L：0297-74-5551 E-mail：toride@medical@central.or.jp
18	総合守谷第一病院	随時(平日)	5～6年生	近隣の宿泊施設を紹介	担当者：佐川俊英 T E L：0297-45-5370 E-mail：sagawa@moriya.daiichi.or.jp
19	友愛記念病院	随時(平日・土)	5～6年生	遠方者には宿泊先を提供	担当者：労務・人事課 稲見 T E L：0280-97-3000 E-mail：yuai@yuai-hosp-jp.org
20	茨城西南医療センター病院	随時(平日)	全学年	可能(無料)研修医の宿舎に 宿泊可能(要確認)	担当者：庶務課 神藤 T E L：0280-87-8111 E-mail：shomuka@seinan-mch.or.jp

## 茨城県からのお知らせ

### 修学生・修学生医師およびi-doctorご登録住所の確認について

いつも「いばらきの地域医療」をご愛読いただき誠にありがとうございます。

修学生・修学生医師および i-doctor ご登録で本誌郵送を希望されている方におかれましては、勤務先の変更や転居により送付先住所に変更がございましたら「茨城県地域医療支援センター」(下記)までぜひご連絡ください。新しい住所へお届けします。

なお、i-doctor ご登録情報の変更については、地域医療支援センターホームページ内の「i-doctor お申込受付」でも承っております。よろしくお願いたします。

## 茨城県地域医療支援センター

茨城県水戸市笠原町978番6(保健福祉部医療対策課内) TEL:029(301)3191

<http://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/iryo/ishi/isei/ishikakuho/top/index.html> E-mail:i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp